

内藤記念・くすり博物館

佐々木 享

企業がつくる博物館

近年、企業がつくる博物館（これを仮に企業博物館という）が目立って増加している。ある企業または企業の連合体が収蔵物や土地、建物を全額出資して創設した博物館を企業博物館と称する人もいるけれども、この考え方は正確ではない。たしかにそうやってよさそうな博物館もあるけれども、実態についてたち入ってみると、このような意味での企業博物館には、いくつかのタイプがある。

①部外者からは公立あるいは非営利的な法人化された施設に見えるのに、博物館の経営自体が株式会社となっているもの。長野県大町市にある塩の道博物館もその1例である。これを企業博物館とはいわないようにおもう。

②特定の企業（または企業の連合体）が収集・展示物の全部、土地、建物等の資産を提供して創設した博物館でも、その経営主体が企業から切り離されて非営利法人（たとえば財団法人）とされている場合には、これを企業博物館というのは厳密には正確ではない。たとえば、博物館明治村は、名古屋鉄道という会社が提供した資産で創設された博物館であるけれども、財団法人とされており、これを企業博物館というのは適切ではない。

実際には企業から切り離されて別法人となっているにもかかわらず、サントリー美術館、山種美術館などのように名称に寄付者の企業の名称がついていると、企業博物館のように見えてしまう場合が少なくない。名古屋駅前にあるヒマラヤ美術館は、ヒマラヤという洋菓子屋の店舗の2・3階にあるし、美術館の名称に店名が入っているので企業博物館

のように見える。しかし、この美術館の経営は財団法人として独立しているから、厳密な意味では企業博物館とはいえないであろう。

③博物館経営が企業の組織の一部局とされ、別法人化されていない場合。典型的にはこれを企業博物館というべきであろう。

企業博物館は、しかし、当該企業の敷地とは別の位置にあり、館の名称に企業名が入っていない場合には、外部の人にはそれが企業博物館かどうかはわからない。たとえばトヨタ博物館は、その名称からトヨタ自動車(株)がつくった企業博物館（かも知れない）と推測がつく。しかし、同じくトヨタ自動車(株)（とそのグループ企業）が経営している「産業技術記念館」は、敷地も別で、名称にも企業名が入っていないので、部外者には企業博物館には見えない。

ちなみに、大塚和義は企業博物館を、(a)「企業が資金を出しながらも博物館自体が、企業活動とはまったく関係のない内容や位置づけにあるもの」(b)「自社宣伝型とでもいうべきもの」(c)「企業の活動を中核に据えて、あるいは底流に据えながらも、自社の製品を超えて、製品をテーマに大きく文化としてそれを取り込んでいく博物館」に分け、最近はこの(c)のタイプが目立っているという。これは、企業博物館がしばしばそうとは見えにくい理由でもある。しかし、この分類は正確ではないようにおもわれる。

れっきとした博物館に見えるものが、個人経営であったり、企業のたんなる一部局であったり、大学をふくむ学校の一部であったりするとともに、そしてそれらがしばしば実

態としては有力な博物館（と呼ぶにふさわしい施設）であったりするところに、わが国の博物館像のわかりにくさの一面がある。博物館とは何かが改めて問われているといえよう。

内藤記念・くすり博物館

わが国のくすりの専門博物館は、筆者が今日知る限り、ここに紹介する内藤記念・くすり博物館のみである。なお、富山市立郷土博物館の展示資料の約3分の1は薬業関係といわれるけれども、筆者未見である。

くすり博物館は、〒501-61岐阜県羽島郡川島町 エーザイ(株) 川島工園内にある。TEL 058689-2101。一宮駅から名鉄バス川島行で「川島口」下車、徒歩1.5km。岐阜駅からもバスの便がある。交通の便の悪いことが難点だけれども、一見の価値がある。

エーザイ(株)の創業者内藤豊次（1889～1978）が、わが国に薬の総合博物館のないことをうれい、薬業関係の資料・図書を収集し、同社川島工場の広大な敷地の一部に1986年にこのくすり博物館を開設した。博物館に接近して、広い薬草園、薬用植物温室もあって観覧できる。典型的な企業内博物館であるけれども、専任の館長、学芸員を擁し、展示にも企業の宣伝色はほとんどないに等しいから、もし別な場所にあったら企業博物館とはおもえないであろう。

筆者が数年前に訪ねた際は、白川村の合掌作り風の6階建の本館のみで、その中に展示室もあった。その後、収蔵された資料と図書が増加したのに対応し、本館に隣接して2階建専用の展示館が新設された。

本館は、ロビー（1階）、300名収容可能な大ホール、小会議室（2階）、エーザイパブリシティ、ラウンジ（3階）——会社の宣伝色がいくらか見えるのはここだけである、図書室（4階）、収蔵庫（5階）、図書室（6階）となっている。図書室には、医薬学関係の図書——主に和漢書が27,000冊あり、閲覧・貸し

出し・コピーサービスも行っている。

さて展示館は、私が今回（95年1月）に訪問した際は、1階が①白沢（はくたく）など健康への祈りの絵画など、②中国医学の伝来、③蘭方医学の伝来、④らんびき（蒸留装置）、⑤華岡青洲関係資料、⑥近世の薬屋を復元したくすりやさん、⑦薬種店、⑧富山のくすり、⑨くすりを作る——諸道具など、2階が①各社の製品展示、②企画展示室、③家庭薬と売薬、④彩る、⑤生薬、⑥海外のコレクション、⑦はかる——各種の計量器、⑧体験コーナーとなっていた。要するに近世から明治初期までの、蘭学の影響をふくんだ漢方中心の医薬関係の豊富な資料が克明に収集され、展示されているわけである。

専門博物館というに足る充実ぶりで、図書も充実しているところから、関心のある人は訪ねておく必要があろうとおもわれる。館長、学芸員も専任でていねいに応待してくれる。

入館料は無料。博物館は入場無料が原則、などどもの本に書かれていることが多いけれども、実際に無料となっている館は少ないので特記しておく。

阪神大震災と竹中大工道具館

さる1月17日の兵庫南部地震により、阪神地方が死者5千余の被害をだした大震災となった。ところで私は神戸市にある竹中大工道具館についても原稿を書くつもりだった。この震災後の様子を電話で尋ねたので、とりあえずのことを記しておく。

竹中大工道具館の建物は無事だったけれども、内部の展示はケースがこわれるなど、かなり散乱した由。その整理に若干の時間を要したので一時休館を余儀なくされたけれども、3月7日から開館した。ただし、当分の間、朝10時から午後3時30分まで。これは従業員の通勤の便が悪い関係によるものらしい。交通機関は、新神戸からの地下鉄が動いているので（ただし三宮駅は通過）、「県庁

前」で下車すれば徒歩5分だから、観覧することができる。

文化財を保存することも博物館の重要なし

ごとの一つだから、今回の震災は、耐震性がもとめられる博物館のあり方についてもいろいろなことを教えている。（名古屋大学）

94年度東京サークル第4回例会の報告

(1995. 2. 18)

「新学力観」と技術・職業教育

—須藤敏昭氏の論文を手がかりとして—

報告者：須藤敏昭さん、岸田興治さん

達成評価論こそ全ての子どもに学力を保障し公教育の崩壊を防ぐという立場。

民間教育研究運動の成果の継承といった意味で須藤さんは、②坂本光男氏の捉え方とその「科学的学力観」という立場に立っているとのことであった。

(3) 問題提起

〈学習観の転換をめぐる〉

①共通教養と課題解決学習のバランスを発達段階でどのように噛み合わせて行くか。

②社会の状況と子どもの意識をみずえた学習内容論。

③学習主体として共同して学習に参加するといった視点を基調にして学習を転換する。

〈教育実践・運動の課題〉

④学習改革論と教育政策論とを関係づけて教育実践・運動を展開していく。

2. 岸田さんの報告要旨

(1) 「新学力観」の教育評価をめぐる

—梶田叡一氏の教育評価論の曲解

梶田氏においては、「向上目標」の実現という成長保障の側面とともに「達成目標」の実現という学力保障の側面も学校で実現させる必要があることを強調しているが、「新学力観」政策に組み込まれた観点別評価では、「頑張ろう・努力しよう」といった気持ちを大切にしている面だけが強調されてしまった。

1. 須藤さんの報告要旨

詳細については、『技術教育研究』第45号の論文を参照してください。

(1) 「新学力観」政策のねらい

「新学力観」政策は、「多様化」「個性化」の徹底を教育評価によってはかることをねらっているものである。教育の平等と効率のバランスを保つことが、子どもたちを早めに「棲み分け」をさせることに反映されている。その政策においては、基本的知識技能といった共通教養を重要視していない。

(2) 「新学力観」への民間教育運動の反応

—現代の学力論の3典型の検討

①竹内常一氏の捉え方と立場

「旧能力主義の学習観」と「新能力主義の学習観」と「子どもの権利条約の学習観」とが三つともえとなつて拮抗している。「批判的学び方学習」を発展させていくことが大切であるという立場。

②坂本光男氏の捉え方と立場

「一元的学力観」と「科学的学力観」と「新学力観」とが対抗している。「科学的学力観」にたつことが大切であるという立場。

③藤原義隆氏の捉え方と立場

「受験学力」と「新学力」と「真の学力・生きる力としての学力」と「計測可能で誰にでも分かち伝えることのできる学力」をそれぞれ支持する4つの勢力が拮抗している。到